

雜報

●會員動靜

任陸軍一等軍醫

陸軍二等軍醫從七位

井上文夫

陸軍一等軍醫

井上文夫

補步兵第十六聯隊附

五級俸下賜

岡山醫學專門學校教授

齋藤精一郎

六級俸下賜

岡山醫學專門學校教授

好本節

(十月二十六日)

任陸軍三等軍醫正

陸軍一等軍醫正六位勳四等

藤掛三郎

步兵第七十四聯隊附陸軍一等軍醫(甲)西田 漑 治

免本職補濱田衛成病院附

步兵第四十八聯隊附陸軍一等軍醫 武井良一

免本職補航空第六大隊附

野砲兵第七聯隊附陸軍三等軍醫 森定 惠

免本職補札幌衛成病院附

佐賀衛成病院附陸軍一等軍醫 淵 嘉吉

免本職中支那派遣步兵第一大隊附被仰付

野砲兵第二十五聯隊附陸軍三等軍醫 小竹 豐

免本職補陸軍步兵學校附

陸軍三等軍醫正 藤掛三郎

待命被仰付

陸軍二等軍醫正 津田 春

陸軍三等軍醫正 漆原 亮平

陸軍三等軍醫正 丹羽 浩

豫備役被仰付

敘從六位 齋藤 清

敘正七位 勅使河原 文

敘從七位 赤木金太郎

群馬縣技師從七位 大西永次郎

任廣島縣技師 廣島縣技師 大西永次郎

年俸六拾圓下賜 (十一月十日)

敘高等官七等 海軍軍醫中尉 吉 栖生一

免第九驅逐隊軍醫長心得補橫須賀海軍病院部員

免第九驅逐隊軍醫長心得補橫須賀海軍病院部員

免第九驅逐隊軍醫長心得補橫須賀海軍病院部員

豫備役被仰付

陸軍二等軍醫正 奈良眞三郎

(十一月十五日)

賜一等給

陸軍一等軍醫 齋藤清

(十一月十七日)

敘正六位

從六位勳六等 小金井拙夫

敘正七位

從七位 井上文夫

敘正七位

從七位 西田熙治

敘正七位

從七位 工藤磨

陸軍一等軍醫從六位勳六等 小金井拙夫

特旨ヲ以テ位一級被進

(十一月二十一日)

賜金

陸軍官等位勳功 氏名

二〇〇

一等軍醫正七位 大塚文雄

二七〇

一等軍醫正六位勳四等 名和田豊作

二七〇

一等軍醫從六位勳六等 平川龍造

四五〇

三等軍 正正六位勳四等 三木徳次

(九年十一月一日)

○關場代五郎君 は去九月十日獨逸國フライブルグ大學病理教室に轉シアショフ博士に就キ研究せられつゝあり

Pathologisches Institut

Albert str. Freiburg i. B.

Deutschland.

○小東四郎君 は豫て朝鮮公醫として咸北茂山に寓居し居られしか今回其職を辭し歸郷せられたり

○梶谷俊三君 は今般東京市麻布區市兵衛町二丁目水川醫院に於て診療に従事せられたり

○津田春君 曩に陸軍を辭せられたる同君は今回尼ヶ崎市別所村中長町に住居せられたり

○大森操君 は豫て秋田縣仙北郡荒川鑛山醫局に勤務し居られしか今般神戸市和田岬三菱病院眼科に轉勤せられたり

○風呂野澤一君 は今回吳市海軍共濟組合吳病院に轉勤せられたり

○中野滿隆君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院第二内科に勤務し居られしか今般同院を辭し上阪せられ大阪市南區難波反物町一三五三、山下方に寓居せらる

○山下成六君(舊秋山) は陸軍退役後岡山醫學專門學校附屬醫院内科に勤務し居られしか今般慶應大學病院内科に轉勤せられたり

○神澤修君 は今般臺灣臺新高郡魚池庄司馬按臺灣電力株式會社建設部醫院長として就任せられたり

○津田薫太君 は豫て日本生命保險會社に勤務し居られしか今般同社を辭し岡山醫學專門學校附屬醫院第一内科に於て研究に従事せられたり

○新藤輝雄君 は豫て廣島市關西病院に勤務し居られしか今般大阪市北區回生病院に轉勤せられたり

○松谷辰造君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院耳鼻咽喉科に勤務し居られしか今般大分縣別府町喜多島耳鼻咽喉科醫院に轉勤せられたり

○佐藤忠躬君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院に勤務し居られしか先般秋田縣仙北郡荒川村三菱荒川鑛山に轉勤せられたり

○箭田繁福君 曩日歐洲より歸朝せられたる同君は今般大連市信濃町に於て内科、小兒科を以て開業せられたり
○涂爐君 は今般臺灣臺南洲東石郡朴子街に於て開業せ

られたり

○本城定男君 は今般神戸市醫師會附屬川崎記念「ラヂウム」治療所主任を辭し神戸市西代莊山に於て開業せられたり

○前田與三郎君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院皮膚科に勤務し居られしか今回同院を辭し松山市末廣町二丁目に於て開業せられたり

○有吉邦男君 は豫て九州帝國大學醫學部皮膚泌尿器科教室に勤務し居られしか今回辭職福岡縣八幡市立町二丁目に於て開業せられたり

永山長三君逝く 君は明治三十年第三高等學校醫學部を卒業し直ちに岡山縣病院眼科に勤務し後郷里本縣邑久郡今城村に於て開業し居られしか本月二十四日急病にて遠逝せられたりと洵に哀悼の情に堪へざるなり

●學位授與決定 徳岡英君は豫て京都帝國大學醫學部に論文を提出し學位を請求し居られしか去月二十五日開會

の教授會に於て滿場一致學位授與の決定ありたり其略歴
及其主論文は左の如し

君は大正二年十一月京都醫科大學を卒業し三年一月同大學副手となり四
年五月産科婦人科學一般專攻の爲京大大学院に入り今春本縣都窪郡倉敷
町倉敷紡織株式會社附屬病院醫長に就任し今日に至る

主論文 月經期ニ於ケル植物性神經系ノ緊張ニ

就テ

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は本月二十四日午後三時より岡山醫學專門學校附
屬醫院に於て開會上坂副會長開會を宣し直ちに左の演説
に移る。

第一席 盜汗新治療劑「アズドリン」ノ醫治的價值ニ

就テ

岡山醫學專門學校附屬醫院第一内科

原 勝 巳 君

「アズドリン」の治驗を、五十七例に就きて報告し、尙
ほ同劑と盜汗との關係に就き詳述せり。(自抄)

第二席 全身性剝脫性皮膚炎患者ノ示説

岡山醫學專門學校附屬醫院皮膚科教室

醫學博士 中川小四郎 君

今 西 順 治 君

演者は剝脫性皮膚炎に關して概括的に諸家の學説を陳
述し最後に五十五歳の男子にして全身性剝脫性皮膚炎な
る診斷のもとに演者等によりて治療せられつゝある患者
を示説せり。(自抄)

右終りて午後四時二十分閉會せり。